



歴史と伝統を積み上げてきた

福山市北部市民大学

そしてその役割 学長 吉川 信政

力量あふれる講師の先生方、意欲あふれる学生に皆さん、そして温かく見守ってくださっている地域の皆様のおかげで、福山市北部市民大学は創立30周年を迎えました。皆様と一緒に祝いたいと思います。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、日常の授業にも支障をきたす状況です。6月になってやっと授業を開始することができました。しかし、そのようななか、出席状況をみると学生の皆さんの学習意欲は旺盛で、100%出席のクラスもあり感心しています。皆さんは3密を避けたり、うがいや手洗いの励行に努めたりして、コロナ禍でも安全を確保して熱心に学習に取り組まれています。

学生のこの姿は一日にしてできるものではありません。専門性に裏打ちされたすばらしい講師の先生方に教えていただいていること、駅家福祉センターの使用許可をいただき、授業を快適に受けることができる環境を整えてくださっている福山市の支援などによって、長い間に培われてきた伝統だと思っています。特に今年度はエレベーターが完成して3階で学習する学生にとっては一段と素晴らしい学習環境となりました。

しかし、市民大学など生涯学習施設の経営は難しいところに直面しています。60歳代そしてさらに若い世代の学生がなかなか増えないのです。それは、70歳までは働く意欲があれば仕事ができる世の中になっており、さらに退職したら地域住民としての役割が待っています。

仕事を続け地域住民の一人として活動することは大切です。でもそれだけでいいのでしょうか。70歳を超えて会社などの元同僚との関係が少しずつ疎遠となって、家庭やその地域の中で生活することが多くなると、家の近くにある生涯学習施設の存在が大きいものになるはずで、自らの趣味を持ち、年齢を重ねても近くに語り合える同好の友人がいることは大切だと考えています。そのことが、これからの高齢者、特に70代後半からの人生を心豊かに暮らしていく大切なポイントだと考えています。

市民大学の活動を通じて、健康寿命だけでなく活動寿命を高めていき、ひいては地域の活性化につなげていくことができたら素晴らしいと考えています。

これからも北部市民大学にたいして、ご支援ご指導をいただくことをお願いして挨拶といたします。